

## 課題に向き合い、地域につなぐ、私たちの使命

# 災害・復興と 福島の女性たちの今

全国の男女共同参画センターや女性センターは、毎年、全国大会（主催：特定非営利活動法人全国女性会館協議会）において、センター同士の情報交換や意見交換および研究成果の発表の場を持っています。今年度は12月2日・3日に福島県男女共生センターで行われ、パネルディスカッションや情報交換等とともに、東日本大震災と原発事故から7年目となる福島の現状をバス視察しました。

## 「つながり」から広がる

初日のパネルディスカッション「災害・復興と福島の女性たちの今」のパネラーは、県内で女性のDV被害者支援等のグループの主宰者、乳幼児の親子を中心に交流と相談を行っている団体のリーダー、有機農業に従事している方、社会福祉協議会の事務長と多士済々でしたが、共通しているのは震災以前から地域に根ざして活動に活動していたことでした。「経験と実績を積み上げていたから、地域をよく知っているから、自治体も支援を任せることができた」、「被災当事者でもある県内女性が支援者として働くには関係性の構築こそが大きなポイントであり、地域でできる支援を広げていくために大切なのは『つながり』だ」と話してくださいました。

## 男女共同参画センターの役割とは

県外避難から戻ってきた人、避難しなかった人、避難してきた人。みんな原発事故の影響下、このまま福島で子どもを育てていいのか心配や不安を抱えて、誰にも話せず悩んでいます。乳幼児の親子を支援してきた団体のリーダーはそんな人たちの思いを大切にしたいとカフェ形式の話せる場を開催しています。「つらい経験をしたのはみんな同じ。だから誰かの言葉や経験が大きな支えになる。」というコメントは、これから男女共同参画センターの役割を示唆しているようでした。

福島県男女共生センターの千葉館長も、センターが果たす役割・使命とは「育てる・気づく・行動する」機会を用意することだと話していました。これは災害という非常事態で支え合い・助け合いができるかどうかは、日常の蓄積にかかっているという「共助」の精神もあるという思いを強くしました。



〈浪江町での一風景〉

## 忘れないでいることの意味

2日目は、津波・原発被害が大きかった地域である、川内村、浪江町、南相馬市、飯館村等をバス視察しました。あれからもうすぐ7年。「みなさんには忘れないでいてほしいです」と、車内で解説された地元のフリーアナウンサーの言葉が心に残りました。

私たちにできること、それは3.11を決して風化させないこと、風評に惑わされず正しく知ること、もしも同じような災害や事故が大阪で起きたらと思いを馳せてみると。それが「忘れない」につながる行動といえるのではないかということを、目の前に広がった景色「福島の現状」に感じました。



〈川内村公民館にて〉



〈南相馬市での一風景〉